

## 黎明紙第4号御研鑽

### 明主様の御救いについて（その3）

#### 淨靈について（中）

神様の御目的である真善美完き理想世界・地上天国実現の段階に愈々人つてきていることを、明主様から私共は、はつきりとお説きいただいて居ります。

ここで、最も根本的、且つ困難な問題は、長い間、神様無視してきた世の中の大半の人々の魂を呼び覚まし、神様の実在を認識させることであることは、先号で申上げた通りであります。

今日までの多くの宗教が、このためにいかに多大の苦心努力をはらつてこられたかは今更申上げるまでもないことがあります。しかし、この事が非常に難かしい問題である

ことは、現在の世の中の状態を見ればよく分るのであります。

ここに、天の時来つて、主神は明主様を通して、その直接的な絶対力を發揮されることになったのであり、  
淨靈こそその表われであります。また、先号で考えさせて  
いただきましたように、淨靈は宗教と科学以上の真理の表  
われであり、而も科学との接觸点をも兼ね備えて居り、唯  
物分野の人々でさえ神様の御力・御心にふれさせていただ  
ける可能性をもつてゐるわけであります。ここに淨靈によ  
る奇蹟と、今までの宗教による奇蹟との間に、本質的な  
違いを見出させていただけると思います。

しかし、ややもすると、誰しもがあまりにも簡単に淨靈  
のお取次ぎをお許しいただけるためにより高い段階で淨靈

のもつ意義をつかませていただき努力を怠り、自分勝手な考えで淨靈を理解出来たつもりになつたり。

その誤まつた考えを人に取次ぐおそれが出てくるのではないかと思います。

明主様はかつて「この道を研究したいと希望する人は、お守りを受けたらよい」（24・7・3）と、仰しやつて居られます。しかし、すぐその後で、「そういう時には大いにいろいろ知らせてあげたらよい」とつけ加えて居られます。恐らく、研究は大いに結構だが、同時に出来るだけ多くの御教えに接することによつて、誤まつた方向にふみ迷わないようしなさいと、注意して下さつたのだと思ひます。

ここで、私共が考えさせていただかねばならないことは。長い間唯物科学・無神思想に支配されて来た人々が、実際に奇蹟のあらわれを目前にしても、その奥に潜む神様の御心をつかませていただくことはおろか、

恐らく偶然として片付けてしまうか、全然見逃してしまうのが大部分でありましょう。よくいって表面的な解釈で満足してしまうことが多いわけであります。

勿論これは、その人の魂の状態・靈的な条件が、十分に神靈の分野のことを認識するまでになつていないうちからあると思います。ここに、私共は再び淨靈のもつ大いなる意義を見出させていただくのであります。

**淨靈は『靈を淨める事を目的とするもの』（『靈主体従』）であり『靈の曇りの解消法』（地34）であると御**

垂示いただいております。また、『本教淨靈に至つては、直接魂に向つて靈光を注いで淨めるのであるから、その効果たるや到底体的（五官を介して淨める方法）の比ではない』（地39）とお説きいただいて居りますように、

淨靈の御力によつてはじめて、人々が奇蹟を通じて神靈の實在を認識し、更にその奥に潜む神様の御心を覺り得るような魂にならせていただけるわけであります。私共は、淨靈をいただくことによつて、奇蹟を体験させていただくと同時に、

たとえ自分では氣がつかない間にも、靈の曇りを淨めていただき、更に深い御神意を覺らせていただける魂へ一段一段と向上させていただいているわけであります。『理窟でも科學でも経験でも解釈出来ない』（奇1）奇蹟を体験

し、その奇蹟が單なる偶然ではなく、起るべき理由があつて起ること、それも、『**本原は靈に起り、体に移写するのである**』（奇3）ことを分らせていただき、遂にはその根源である神様の実在を認識し、

更に神様の御心を覚させていただくために、神様が私共に採られた方法が淨靈であることを、今一度はつきりさせていただかなければならぬと 思います。

かつて、フランスのある雑誌の主筆をしていたカルティユ氏夫妻が明主様とお会いし、淨靈について色々お尋ねしたことがありました。その時、カルチイユ氏は「癒す御力というものがお有りになると同時に、例え頭を痛くする事もお出来になりますので」と言う大変核心をついた質問

をされました。これに対し、明主様は即座に次のようにお答え下さったわけであります。

『出来ません、之は何処迄も善ですから一痛めるのは悪です。苦痛ですかね。但し、痛みを取る為に一時痛む場合もあります。それは浄化作用です』（栄164）また、ある御論文の中で、

淨靈の一つの特異性として、『その目的が正であり善であり、人類愛的でなければ効果を發揮し得られない事である』（地4）とお説き下さつて居ります。ここに、私共は淨靈が科学との接觸点をもちながら。決してそれだけのものでないことを分らせていただけたと思ひます。

現在、科学文化によつて、私共は多大の恩恵をうけてきたことは否定できない事実であります。現代社会の輝かし

い様相は、全く科学の進歩、発達によるものと申しても過言ではありません。しかし、原子爆弾等を見ても分るよう『**進歩した科学を悪の方でも利用する**』危険が生じてきて居ります。つまり、科学そのものは、善の働きにも感の働きにも利用され得るわけであり、それを使う人間の心に左右されるということであります。

しかし、淨靈は如何なる人間がお取次ぎさせていただいても。あくまで善の働きであり、惡の働きに利用されることなどは全くありえないわけであります。世の中にはややもすると善と信じて行つたことが人を不幸にする場合もあるわけでありますが、私共が淨靈をお取次ぎさせていただいている時は。完全に善の働きとしてお使いいただけるわけであります。

ある人が、「人以外の生物や無生物に御淨靈をしても素晴らしい効果がありますのはどういう訳でしようか」と質問申上げたことがあります。明主様はその時、『淨靈をするとね、すべての曇りが取れて淨化するんです。淨化するとね、何でもすべていい働きをする様になるんです。(中略)つまり、森羅万象一切のものは曇りがとれると「力」が出て、その物本来のよい働きをするんです。

(中略)淨靈すればあらゆるものが、悪いものは減り、いいものは多くなる。で、その用途がよくなるんです。だから、淨靈すると、すべて人間の幸福を増すべき働きをする様になるんです』(光17.24)とお答え下さつて居ります。また、火事を淨靈によつてお救いいただいたことにつ

いて、ある人が「これは焼くべきものを焼かずに済ましてしまうんだから悪いのではないか」と言つたのに對し、明主様は『そうではない、非常にいい事なんです。つまり、それが神の慈悲なんです。悪人も助けなくてはいけないんです。火事が起つたというのは、そこが穢れているからそれを浄化するために焼かれるんですが、淨靈すれば曇りが消えて難を小さくしていただけるんです。

不仕合させはこの淨靈によつて消滅するんです。何事でも人間の苦しみを減らす事は神の慈悲なんですから、余計な事は何も考えないで、無意識に、ただ可哀想だからやつてあげる、それでよい。無意識でいいんです。それが己むに己まれぬ慈悲なんです。そして、そうする事がまた、神様

の御旨に適うんです』（光17・22）ともお説き下さつて居ります。

『淨靈は病氣を治すのが目的のようになつてゐるが、本當から言うとそれだけではないので、もつと大きな意味がある。一言にして言えば淨靈とは幸福を生む方法』（地34）であり、そこには、人間の不仕合せをなくし、一人でも多くの人間を救わんとされる神様の大愛の御心がこめられていることを忘れてはならないと思ひます。

以前、印度で水の上を歩いて渡つた人のことについて、『水の上を渡つたりしたつて、人間や社会には何の益もない。單なる興行師にすぎない。つまり、病氣が漁治つたり、貧苦が解決したりなど實際の効果がなければ駄目です。』（昭23・II・28）と、お説きいただいて居ります。

すように、明主様を通してあらわされる奇蹟には、必らず私共を苦しみから永遠に救わんとされる神様の御心がこめられているのであります。

私共の淨靈に対するあり方が、興味本意に終つたり、單なる病氣治しとして、

それも自己のためだけに利用するようなことに陥つたりするのを厳につつしまなければならないと思ひます。

淨靈の御光りを魂にいただき、奇蹟を体験させていただいた時、

その人の魂の状態はそれ以前とは異つてゐるわけでありますから、その人の淨靈に対するあり方も当然変わつていなければならぬわけであります。

『その病人が何も分らない内は疑いもし、反対もし、物は試しだぐらいにやるのですが、それはそれで神様から許されます。それは当たり前です。ところが相当に話を聞いたり、御神書を読んだり、中には信仰に入ったりする人があります。ですが、入つていながら、それに合つてゆかない想念でやつてもららると、そのときは治りが悪いのです。うまくゆかないのです。そういう事に対してチヤンと合理的の理窟があるのです。

だからかえつて疑つていた人が馬鹿に治り、それから相当に信じている人で治りが悪いという事がありますが、それはそういう訳です。全然知らない人はいくら疑つても、それは当り前の事で許されるのです。理窟に合つているのです。ところが相当事実を見せられながら、なお疑つている

人は思うようにいかないのです。そういう事をよく考えてみるとチャンと理窟に合っているわけです。その合つている理窟を早く発見し早く知るという事が智慧正覚です。』

（教29・5～6）とお説きいただいて居ります。淨靈をいただき、曇りを淨めていただくことにより、同じ奇蹟を通して、より深く御神意を覺らせていたくことが出来るわけであります。

しかし、もし『御教えに基づく信仰』の確立がなされて居ない場合には、せつかく奇蹟を体験させていただいても、最後には自己流の解釈に陥ってしまうのではないかと思ひます。

明主様は、かつてお蔭話や体験談に解説をつけて下さったことがあります。恐らくその中にある御神意を、私共が

今後少しでも深く正しく覚させていただけるようにとの御心からそのようにして下さったのだと思います。

次号では、この点から出発して、淨靈にこめられている神様の御心について今少し考えさせていただきたいと思います。